

鹿屋体育大学 SCO-OP (Sporting Co-operative Education) 実習への教育的成果と課題

川西正志, 岩木龍ほ, 北村尚浩
(鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター)

要約

鹿屋体育大学では、生涯スポーツやスポーツビジネス界における学生の在学中での実践的な専門的技術や知識を高めるため、2006年4月より Co-operative and Internship Program を産学間連携で実施している。こうした実践教育に長い歴史をもつ諸外国の事例を見る限り、その教育的効果は大きく、学生の卒業後のキャリア形成にも強い影響を与えている。文部科学省では1996年より国内大学でのインターンシッププログラムの促進を奨励し、現在では90%以上の大学で実施されている。本研究では、スポーツ専門職開拓のための鹿屋体育大学が取り組んできた SCO-OP (Sporting Co-operative Education) モデル事業の教育的成果と今後の課題について検討することを目的としている。本研究で研究対象とする資料は、2007年と2008年に実施した SCO-OP 実習生と実習先からのプログラム評価に関するインタビュー調査結果や自己評価レポートを対象としている。主な研究結果からは、次のようである。

1. 実習生の自己評価からは、SCO-OP 実習を通して、専門的分野での自己能力の再認識や課題の発見、社会的な視野の育成、職業観や新たな価値観の獲得など、職業人として専門分野で実践的トレーニングできたということがいえる。
2. SCO-OP への実習先からは概ね肯定的な評価があるものの、今後の継続性と教育的効果を考慮すれば、より長期間での実習や事前の本人とのインタビューによる実習先との適応性について双方の検討が必要である。

キーワード：鹿屋体育大学，SCO-OP，教育的成果，課題